

酒々井町

郷土研究会会報

第100号

平成13年4月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

会報百号の発行を祝して

酒々井町長 綿貫登喜夫

この度、酒々井町郷土研究会が、ここに会報百号を発行されますことを、心からお祝い申し上げます。会員の皆様におかれましては、胸中さぞかし感慨深いものがあるかと拝察いたします。

今日、「心の豊かさ」が求められている中、皆様の活動は先人の足跡とのふれあいを通して、まさに生きがいあふれる生涯学習の実践そのものであり、称賛の意を表します。さて、酒々井町を取り巻く環境は大きく様変わりしておりますが、これからも町民の皆様と手を携え、活気と潤いに満ちた町の実現を求めて努力して参りたいと考えております。ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、この意義ある百号を新たな飛躍への出発点と

郷土研究会今昔

青木 朝次

酒々井町郷土研究会の前身は郷土史研究会と名付け町内の少数の識者が、町の歴史等を研究しておりました。が、近隣市町村においても市町村史の編纂の機運が高まり当酒々井町もその例に漏れず町史の編纂に取り組みました。

相京晴次氏を郷土史編纂委員長として有識者上下の隔てなく一致団結して頑張ることになりました。小さい町とは云いながら町の隅々まで調査するには人手が足りず郷土史研究会を発展的に解消し郷土研究会と名を改め町内全域に呼び掛け大々的に発足し、最盛期には会員数三三〇名を越えました。初代会長に相京晴次氏を擁し十年にして町史の編纂を終

えました。町史の内、通史の上下二巻の校正は郷土研究会の会員が行いました。その編纂の激務の傍ら郷土研究会の発展にも努力を重ねその成果は世間に認められて千葉県教育委員会の表彰を受け千葉テレビにより郷土研究会の記録を映画に納める等各方面の称賛を受けました。

二代目会長は会田秀雄氏とし町内二五社の神社の調査、住職在住寺院九ヶ寺・無住寺八ヶ寺・廃寺十七ヶ寺の石佛の調査整備を行い、又墓地や路傍に立つ石佛に至るまで修復整備し実に十二年の歳月をかけて努力に努力を重ね完了致しました。

三代目会長は青木朝次とし平成十一年酒々井町町制百十周年記念事業として町と共催で酒々井町全域の寺社から県内屈指の保有量を誇る大小二八九点の絵馬を一堂に集め盛大な絵馬展を開催致しました。また町内の小学校に出張して藁草履作り、昔の道具・民具の使い方、時々刻々と変わる町の昔の姿の解説、昔の遊び道具による遊び方の実習、七草粥の調理等々に出張して児童に非常に喜ばれております。

江戸文化の「粹」を見たい —文化は伝承である—

藤田政方

小正月の風物詩「どんとやき」は、地獄の思想に依っているようだ。閻魔大王が子供の悪業の裁きで舌を抜く。この検事調書が閻魔帳である。人間世界に派遣された代官が、子供の悪評価を報告したくない為、調書と共に館を焼失させる。この代官への感謝と無病息災を祈る行事として始まった。とかつて訪問した山梨県釜淵村の長老に教えられた。

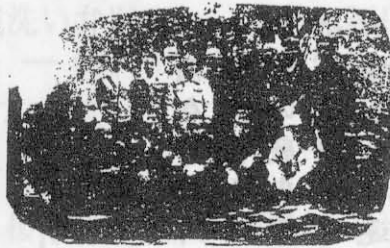
近頃、この行事が殆ど見られないのは残念だ。伝統行事は、感謝・願いの祈りである。

墨・馬橋・上岩橋の獅子舞は地域の方々の努力で引き継がれていることは喜ばしい。酒々井の山車も素晴らしいと聞いていたが未だ見たことがない。引き回し手が不足等、諸事情があるようだが、是非江戸文化の「粹」な姿を拝見したいものである。文化は伝承・保存されて初めて価値がある。知らずして埋もれている文化を発掘し、新しい生命を吹き込んでいくのが郷土研の方々である。地道な活動であろうが、今後も歴史文化の語り部として活躍される事を期待してやまない。

町内石佛調査の思い出

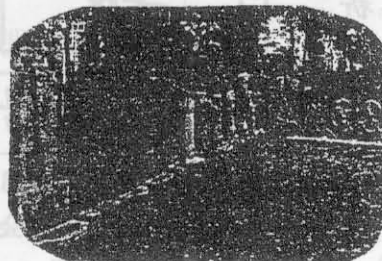
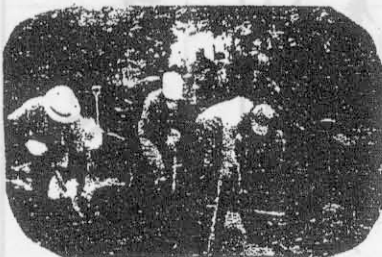
会田秀雄

四月一日号発行で会報百号となる。一口に百号と言っても郷土研発足以来二十四年目である。思い出は山ほどあるが中でも十六、七年前の石佛調査です。この目的は私たちが住んでいる神社・佛閣のご本尊として大切に祀りされている神佛ではなく、街道筋や畔道、野や山、墓地と自然の中になにげなくひっそりと置かれ、



本来見ることの出来ない神や佛の姿や形を石造物として具象化した石佛、宗派に属さない神佛に私達が手を合わせ、それを身近に接することのできる民間信仰の大切さ、祖先がどん

作業風景



な時代も懸命に生きて証してあるのです。このように石佛信仰を文化財とし、大切に次代に引き継ぐことを念じつつ調査と資料の永久保存も兼ね備えてのことでもあった。故初代会長相京晴次氏他十一名で調査班が編成され月に一回ということ調査が始まったのです。ところが至る所石佛・墓石の倒壊や傾き、埋没寸前、埋没、埃をかぶって輪郭も像容も定かたなく崩れそうになつてやうと遺つて直しが先決となり、手作業の金棒によるボーリング、三又に滑車をつけての墓石起こしや整地と苦勞の連続であった。ボーリングでは三〇、四〇基余りの石佛・墓石が発見された。そして整地を終わると台石に合わせて元通りに建て直す。終わって線香を手向け回向し、初めて調査が始まるのです。月一回とはいえこの連続でした。調査は五年の長さ歳月を要し約一〇〇〇体の石佛の種類、像容、年号、銘文等を網羅し、石佛は庶民の歴史の証言者であり、主尊によつてなにを願ったのかわかり何時でも手を合わせられる開放された佛であることを身をもって体験し苦勞が喜びに変わったのでした。

研修部あれこれ

青木朝次

酒々井町郷土研究会は昭和五十二年一月一日相京晴次氏を会長にして発足しました。

会の趣旨は酒々井町史の編纂のお手伝いでしたがそのうち町内の史跡になりました。郷土研究会として町内史跡巡り、野草観察等で町内の神社佛閣・遺跡・旧跡等を見学し尽した後他町村の文化財の調査(見学)を志し足を延ばしました。渡る世間は広いもので町内では見られない珍なるもの、奇なるものも数多くあり研修部として部員の増員と内容の充実を図りましたが探求心は益々高まり尚々高度なる文化財を求めて県内を踏破するもあき足らず県外遠方まで足を延ばし宿泊してまで見学を志すようになりました。そして参加者の見学体験記が掲載された会報は都合で見学会に参加できなかった人達に喜んで頂いております。

一年一回の一泊見学会は北へは遠く福島県・宮城県・岩手県まで、南は愛知県・岐阜県に及んで居ります。年三回の日帰り見学会は関東地区全県の他新潟・山梨・長野県に及んでいきます。また年四回の名勝探訪と名付けた見学は東京全域と鎌倉方面迄自由参加形式で当日駅に集合した方だけ先達の掲げる旗のもと徒歩で名勝地をのんびり見学するのですが毎回数の方の参加があり嬉しい悲鳴をあげております。このような見学会で目の保養、知識の糧とするだけでは申訳ないと町内史跡の草刈り等清掃作業をしておりました。会員の高齢化が進み何時しか消滅、若い人達の入会が望まれる昨今です。会発足二十五、色々の思い出があり短いような遠いような二十五でした。

百号の喜び

「書きましようか」の一言

上田悦子

郷土研究会に入会して漸く馴染んだ昭和五十七年三月、初代相京会長を町史編集室にお訪ねした折、「ちよつとお願ひがあるのだが、会報を書く人がいないので書いてくれませんか」と言われました。二五〇人を越える会員さんに届けられる会報を書くことの責任の重さを思うと固辞しかなく、そのように申し上げたのですが、「読めればいい、書く人が必要なのだ」との言葉にあとは何の

言い訳もせず「書きましようか」の一言で書くことを引き受けてしまいました。前任者の真名子さんの立派な会報の後のこととて緊張感で胃の痛む重い筆を走らせました。定期的に発行するよう頑張るしかなく、九十一号まで拙いながら書かせ頂きました。

今も胸のキューとしまる痛みは初代相京会長のお顔と共に二昔も昔のことか思い出されます。

二十一世紀と共に百号の発行が出来ました喜びは、郷土研究会を沢山の愛する人々がいるからこそその至上の喜びです。

百十号、百二十号から二百号に向かって皆様の会報へのご協力をお願い申し上げます。

い申し上げ郷土研究会のますますの発展を祈つてやみません。



初代 相京晴次氏



2代 会田秀雄氏

現 青木朝次氏

「深川情緒に浸る」

浜口信義

二十世紀最後の名勝探訪となった十二月六日は天気も良く参加者も四二名と盛況で、各寺社では青木会長の説教を受けた。

深川の地名は慶長年間に摂津の人深川八郎衛門が新田を開発して深川村を興したのが始まりで約四百年の歴史があると江東区発行の「史跡を訪ねて」に記されている。東西線門前仲町駅で下車し深川不動堂へ行く。

ここは元禄十六年(一七〇三)新勝寺の本尊を永代寺の境内に出開帳したのが始まりで、酒々井町に残る安政三年(一八五六)の古文書に「新勝寺の本尊と宝物が江戸出開帳になったので道筋の者は花火等の大騒ぎや喧嘩口論はしないよう」と役人からの回状が出されている。このように出開帳は江戸期を通じて盛大だったようである。明治に入ると境内を貸していた永代寺は廢寺となり、不動様は深川不動堂として残った。

次に訪れた富岡八幡宮は江戸三大祭りの一社で境内には立派な神輿が展示されている。また現代相撲の元

になった江戸勸進相撲がここで行われた。境内には歴代横綱碑、大関碑、珍しいのは巨人力士碑がある。最高身長力士は「生月」の二、三メートルであった。

次に明治十一年に作られた都内最古の鉄橋八幡橋を見学して昼食場所の清澄庭園へ向かった。ここは紀ノ国屋文左衛門の屋敷跡と伝えられる。全国の銘石を配した回遊式林泉庭園で静かな昼を楽しんだ。

午後は松平定信の墓と江戸六地藏の一つがある靈巖寺へ行く。地藏様は銅造坐像で思ったより大きい。六地藏の内一体は明治初年に壊れて五体が現存している。靈巖寺の隣にある江戸深川資料館で江戸時代の深川情緒を楽しんだ。その後芭蕉庵跡の稲荷神社に参り、最後は隅田川と小名木川が合流しているところにある芭蕉庵史跡記念公園で深川の変わり行く景色を見ながら解散となった。

雪ですべった寿福寺界隈

沖田 ミチ子

年度始めの恒例の初詣では六回目の鎌倉です。お天気は良いのですが昨日の降雪のため歩くのに一苦勞。

佐助稲荷では階段が急で足もとがおぼつかなく怖かった。銭洗い弁財天ではお金を清め自分も清めてきました。次に源氏山公園です。ポニースカウトの皆さんが造ったのでしょいか雪ダルマが二つあり、側にたつ木の枝に大きなりスを見ました。頼朝の銅像はとても若々しい顔でした。ここでお弁当を食べながら雪の坂道を足もとに注意しながら下り始めました。寿福寺の墓地に着いたものの歩くのが精一杯であまりお墓を見ませんでした。

ここで解散になり私達は鎌倉八幡宮に行きました。日曜日なので大勢の人で混んでおり、赤ちゃんのお宮参りが何組も来ていました。寒牡丹も見たかったです。来年にします。雪の鎌倉も印象深い一日でした。私達はJR快速で成田まで直行し京成で帰ってきました。JR成田駅にも団体の人達で一杯でした。私達は鎌倉のお土産の袋を持ち、成田駅の団体の人達も成田のお土産の袋を持って、面白い光景でした。



酒々井町郷土研究会平成13年度役員・運営委員名簿

| 役名 | 氏名 | 住所 | 電話 |
|------|-------|----|----|
| 顧問 | 沖田善三郎 | | |
| " | 田村直子 | | |
| " | 会田秀雄 | | |
| 会長 | 青木朝次 | | |
| 副会長 | 上田悦子 | | |
| " | 高木正浩 | | |
| 会計 | 福田照子 | | |
| " | 福田芳江 | | |
| 監事 | 福田豊吉 | | |
| " | 筋玉子 | | |
| 運営委員 | 鶴岡知子 | | |
| " | 上野和子 | | |
| " | 寺本恵美 | | |
| " | 有田政勝 | | |
| " | 丸山正義 | | |
| " | 行武政市 | | |
| " | 執行正勝 | | |
| " | 佐藤照子 | | |
| " | 矢野三雄 | | |
| " | 渡辺昌子 | | |
| " | 浜口信義 | | |
| " | 林芳子 | | |
| " | 犬島正子 | | |
| " | 久我かず子 | | |
| " | 岡田利光 | | |
| " | 古川国雄 | | |
| " | 富沢勝 | | |
| " | 木村雍子 | | |
| " | 相京豊 | | |
| " | 高橋喜重 | | |
| " | 桜井徳三 | | |

執行部及び運営委員の役割

| 執行部 | | 顧問 |
|-----|--------------|--------------------------|
| 会長 | 青木朝次 | 沖田 善三郎 田村 直子 会田 秀雄 |
| 副会長 | 上田悦子 | |
| | 高木正浩 | |
| 会計 | 福田照子 | 総務 久我 かず子 |
| | 福田芳江 | |
| 監事 | 福田豊吉 筋 玉子 | |

研修

高橋 喜重
桜井 徳三
古川 国雄
相京 豊
富沢 勝
有田 政勝
行武 政市
執行 正勝
丸山 正義
矢野 三雄
浜口 信義
寺本 恵美
林 芳子

広報

鶴岡 知子
佐藤 照子
上野 和子
木村 雍子
岡田 利光

野草

犬島 正子
渡辺 昌子

平成13年度事業計画 酒々井町郷土研究会

| 行事名 | 概 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | | | | | | | | | | | |
|------------------|----------|----------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 1 定期総会 | 1 | ○ | | | | | | | | | | | |
| 2 会報発行 | 4 | ○ | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 3 講座・ 学習会 | 郷土史講座 | 1 | | | | | | | ○ | | | | |
| | 史談会 | 7 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | |
| | 町内史跡めぐり | 1 | | | | ○ | | | | | | | |
| | 古文書学習 | 9 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 研修 見学会 | 木下街道を歩く | 4 | | ○ | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| | 一泊コース | 1 | | | | | ○ | | | | | | |
| | 日帰りコース | 3 | | | ○ | | | | | ○ | | | ○ |
| 5 野草 の会 | 名勝探訪 | 4 | ○ | | | | | ○ | | | ○ | | ○ |
| | 野草観察会 | 2 | | | ○ | | | | | | ○ | | |
| 6 役員会・運営委員会 | 七草粥を食べる会 | 1 | | ○ | | | | | | | | | |
| | | 5 | ○ | ○ | | | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 7 生涯学習フェスティバル文化展 | 1 | | | | | | | | | | | ○ | |

郷土研日誌

| 月日 | 内容 | 参加人員 |
|-------|------------|------|
| 12/27 | 会報発送 | 24人 |
| 1/10 | 監査 | 6 |
| /13 | 運営委員会 | 22 |
| /20 | 総会準備 | 22 |
| /20 | 名勝探訪資料作り | 2 |
| /21 | 銭洗い弁才天方面 | 15 |
| /28 | 定期総会 | 105 |
| 2/3 | 史談会 | 20 |
| /5 | 大室台小(昔の遊び) | 11 |
| /13 | 研修部会 | 13 |
| /16 | 七草粥を食べる会 | 102 |
| /17 | 大室台小(七草粥) | 8 |
| /20 | 編集会議 | 8 |
| /20 | 古文書の会 | 7 |
| /24 | 榎本正三先生講演 | 60 |
| 3/2 | 大室台小(鞆餅) | 13 |
| /3 | 史談会 | 16 |
| /9 | 運営委員会 | 27 |
| /10 | 編集会議 | 8 |
| /15 | 編集会議 | 8 |
| /21 | 古文書の会 | 9 |
| /23 | 高尾・日野方面 | 36 |

見学

案内



木下街道を歩く ①

雨天代替 四月二十三日(月)
 四月二十七日(金)
 まず行徳から八幡まで歩きます。
 スタートは、行徳新河岸跡の高さ四
 ・五メートルの常夜灯。行徳名物干
 うどんの旧笹屋跡から寺町通りへ。
 浄閑寺門前の高さ二メートルの六面
 灯や六地蔵は必見、妙覚寺境内のキ
 リシタン灯籠は房総でただ一つの珍
 しいもの。
 行徳札所第一番の徳願寺には宮本
 武蔵の供養塔があります。
 再び街道を北へ、行徳橋から江戸
 川の堤へ出て昼食。午後は稲荷木の
 一本松から京成八幡駅へ、行程八キ
 ロの楽しい散歩です。

一泊見学会

五月二十二日(火)
 二十三日(水)

更埴・森將軍塚古墳方面

風薫る青葉のよき候、長野塩田平
 の歴史と古代の史跡にロマンを求め
 ます。泊まりは信州最古の温泉・美
 人の湯ともいわれる別所温泉でくつ

ろいで頂きます。

◎上田城(市指定)

真田昌幸が築いた城で実戦に使
 われた城として珍しい。

◎池波正太郎真田太平記館

上田にゆかりの作家池波正太郎
 氏の記念館です。週刊朝日に連載
 された「真田太平記」は有名。

◎国分寺・三重塔(国重文)

俗称「八日堂」といい天平年間
 に国分寺の一つとして建立された

が戦国時代全山焼失し弘化年間に
 金堂から諸堂宇が建てられ、真田

昌幸と徳川秀忠が講和を結んだ会
 見の場として知られる。三重塔は

室町時代の建立で国の重要文化財

◎生島足島神社

特別に古い神社で延喜の制では
 名神大社に、戦前は官幣中社に列
 されている。古代信仰を伝える貴
 重な存在。一月十五日のお筒粥神

◎大法寺(青木村)

藤原鎌足の子定恵により創建さ
 れたといわれる。国宝の三重塔、
 国重要文化財に厨子と須弥壇、十

◎森將軍塚古墳

一面観音立像、普賢菩薩がある。
 シテ、
 四世紀に造られた科野のクニで
 は一番大きい一〇〇メートルの前

◎森將軍塚古墳

方後円墳で王の墓ともいわれ、発

掘調査に基づき正確に復元されて
 いる。

◎更埴市森將軍塚古墳館

現地では見ることのできない石
 室や副葬品や埴輪など展示されて
 いる。

◎更埴ふるさと漫画館

政治漫画家として有名な『近藤
 日出造』の世界を紹介する蔵造り
 風の漫画館です。

◎長雲寺

龍燈山平格院と号し、元暦年間
 に快照比丘の開山。今は真言宗の
 (智山派)智積院の末寺。本尊は

五大明王で一七〇センチの木造等
 身大の仏像。国重要文化財の木造

愛染明王坐像は、京都の仏師久七

作、醍醐寺から移されたもの。

町内史跡巡り

町内を東西南北、幾つかに分けて
 それぞれの地域を歩いていますが、
 今回は下宿・新堀・中川辺りを散策
 しましょう。

昔栄えた酒々井本通りも旅人は今
 や車や電車で素通り。一筋中に入れ
 ばのどかな田園風景が見られます。
 酒の井伝説やカンカンム口の椀貸伝
 説など酒々井昔話にもなっていると
 ころを歩きます。往時を偲ながら歩
 きましょう。

名勝探訪

目黒方面



六月 八日 (金)
 雨天代替 六月十五日 (金)
 目黒駅から険しい下り坂・行人坂の途中に大円寺があります。境内には明和の大火で犠牲になった人々の供養塔・羅漢像が並んでいます。行人坂下の目黒川にかかっている太鼓橋を渡り山手通りへ。今は平橋となっていていますが、江戸時代は優美なアーチ状の石橋だったそうです。目をとじて思い浮かべてみてはいかがでしょうか。
 目黒不動尊のある周辺は門前町として栄え、今でも毎月二十八日の不動縁日には大勢の参拝客でにぎわいます。裏手の墓地には青木昆陽のお墓があります。
 午後は東京都庭園美術館、アール・デコ様式的美術館と洋風庭園をゆつくり見学し、家路に着きたいと思

黒米の小豆粥の

お味はいかが



野草部 犬島 正子
 「吉備津神社でいただいた赤米の

お粥を郷土研の皆さんに味わっていただきたい。「そんな一言で始まった「七草粥を食べる会」の献立会議。でも赤米はどこにあるのでしょうか。その日から古代米探し開始。いろいろと情報が集まるうち、黒米赤米は近くで買えること、そして今の米にはない栄養成分が含まれ健康のために良く特に黒米(紫黒米)は独特の栄養価値と薬用価値があり白髪が黒髪になることなどもわかり、黒米の小豆粥に決定。

七草粥と初めての試みの「黒米の小豆粥」を塩味で・砂糖味でとどのように味わっていただけましたでしょうか。この会は多くの方々の御努力で続けられてきましたが、今回は会員の皆様や役場関係者等百名を越える会食になり、改めて古代米に興味を持つている人がいかに多いか知らされました。たくさんの方々の御参加、ご協力に心から感謝申し上げます。

第二十五回定期総会報告

一月二十八日(日)午後一時三十分から中央公民館講堂において開催され、平成十二年度事業報告・決算報告の承認、平成十三年度事業計画及び予算案の可決、そして新役員の岡田利光さんと渡辺昌子さんの紹介

がありました。引き続き「酒々井町の将来について」と題して役場企画課長の戸村喜一郎氏の講話があり、第四次酒々井町総合計画の重点施策のなかで、IT化による情報公開、本佐倉城跡の公有化、複合的教育文化施設が十四年度の完成を目指して進められていることなどが話されました。とても寒く前日からの雪で足下が悪い状況でしたが一〇五名の方々の出席のもと無事終了しました。Y子

あとがき

郷土研会報が昭和五十二年発行以来ついに百号を数えました。一号から目を通しますと当時の先輩方の熱い思いがひしひしと伝わってきます。内容は本佐倉城跡など酒々井町の歴史・文化、会員の研究成果の発表、見学記などがあります。これからも歴史と文化について載せていけたらと思います。また九十一号までは手書きの会報で親しみやすさが伝わってきました。現在のワープロ書きの会報、皆様に親しんで読んでいただく様努めていくつもりですがいかがでしょうか。皆様の投稿、ご意見をお待ちしています。K子

郷土研行事案内

平成13年4月~6月

| | | | |
|----------------|--|---|---|
| 史談会 | 4月 なし | 5月 12日(土) 13:30 公民館 「千学集と妙見実録千集記」 講師: 高橋健一先生 | 6月 2日(土) 13:30 公民館 「道が語る酒々井の歴史」 講師: 高橋健一先生 |
| 古文書を 読む会 | 4月 17日(火) 13:30 社会福祉協議会 「岡田家文書」 | 5月 15日(火) 13:30 社会福祉協議会 「岡田家文書」 | 6月 19日(火) 13:30 社会福祉協議会 「岡田家文書」 |
| 木下街道を 歩く(1) | 4月23日(月) 『行徳方面』京成酒々井駅8:10集合 雨天代替4月27日(金) (場合によりコース変更あり) 京成酒々井駅 — 船橋 — 西船橋 — JR西船橋 — 行徳 — 行徳新河岸跡 — 旧笹屋 — 浄閑寺 — 妙覚寺 — 徳願寺 — 江戸川土手(昼食) — 稲荷木の一本松 — 京成八幡駅 — 京成酒々井駅 弁当・飲み物・敷き物持参 | | |
| 野草観察会 | 4月13日(金) 小雨決行 (弁当・飲み物持参) 集合時間・場所: 9:50 社会福祉協議会前 観察場所: 勝蔵院下周辺 観察後社会福祉協議会にて昼食・勉強会をします。 | | |
| 町内史跡 巡り | 5月13日(日) 雨天代替5月20日(日) 集合時間・場所: 9:00・京成酒々井駅(中央台側) 京成酒々井駅 — 築山 — 麻賀多神社 — 古松碑 — 酒ノ井碑 — 勝蔵院 — 上岩橋貝層 — カンカンムロ — 双体道祖神(新堀) — 西藏院(昼食) — 二王みち — 水神社 — 馬頭観音 — 京成酒々井駅 *弁当・飲み物持参 約6キロの行程(コース変更あり) | | |
| 一泊見学会 | 5月22日(火)~5月23日(水) 更埴・森將軍塚古墳方面 申込受付 4月6日(金) 9:00~10:00 (公民館ロビー) 定員 45名 (集合 7:10) 会費 26,500円 (宿泊先 旅館中松屋 ☎0268-38-3123) 5/22中央公民館(7:30) — 湾岸・幕張 — 小菅 — 佐久(昼食) — 池波正太郎真田太平記館 — 信濃国分寺 — 上田城 — 大法寺三重塔 生島足島神社 — 別所温泉(泊) 5/23別所温泉 — 森將軍塚古墳 — 更埴ふるさと漫画館 — 長雲寺 — 更埴IC — 坂城(昼食) — 信州夢ばらの里 — 小菅 — 酒々井 キャンセル 実施日5日前までに青木宅へ | | |
| 名勝探訪 | 6月8日(金) 目黒不動方面 雨天代替6月15日(金) 集合 京成酒々井駅8:10 (場合によりコース変更あり) 京成酒々井駅 — 日暮里 — JR目黒駅 — 大円寺 — 目黒不動 — 大鳥神社 — JR目黒駅 — 東京都庭園美術館 — JR目黒駅 — 京成酒々井駅 *弁当・飲み物・敷き物持参 | | |